

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400426		
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	1F
所在地	宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3番15号		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 5 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年4月に開設してもうすぐ4年になります。利用者の数は増えたり減ったりしていますが、皆明るく元気で過ごせています。コロナ禍で家族様の面会が辛い状況ですが、利用者様たちは食堂の大きな窓から見える、近隣住民や小学生の登校の行き来に手を振り時には声をかけ、また手を振り返して頂くことに日常生活の意義や喜びを感じながら生活されています。日々刻々と世相が変わりますが、職員一同「いつも皆様が笑顔で穏やか」な施設であり続けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道286号線の西多賀二丁目交差点から三神峯公園方向に約1.5kmに位置している。周辺は小学校や郵便局、病院等が点在する住宅街である。目標達成計画に掲げた全職員の避難訓練への参加は、避難訓練の毎月開催とシフト調整により、職員が交互に参加して達成されている。理念の実践も職員アンケートの実施で、職員それぞれの考え方や取り組み姿勢などに違いがあることが分かり、ホームが目指すケアのあり方について職員同士で話し合うきっかけとなった。職員は入居者が地域の日常が感じられる家庭的な環境のなかで理念に沿った、その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね)「ユニット名 1F」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが、振り返って見直すようなことは出来ていない。新しい職員が入职するなか、理念の見直しと全職員へ浸透させることが必要	理念は事務所に掲示して職員間で共有している。職員アンケート結果から、「真心をこめて～」を掲げ、ホームが目指すケアのあり方について職員同士が話し合うきっかけとなった。理念を意識した行動を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流する機会は少なくなっているが、近所の商店、美容院、精肉店などの利用は継続できており地域交流の基盤となっている。	コロナ禍以前は、地域の消防訓練参加や金剛沢小学生の体験学習の他、社協の紹介で傾聴ボランティアが来訪していた。近所の商店や電気店の食材や湯沸かしポット、乾電池の配達時に店主などと交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の利用者と職員が付近を散歩して、顔を合わせた近所の方々と挨拶を交わす。少しずつだがグループホームのあり方や支援を見て頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、集まる会議は控えている。代わりに書面を通じてグループホームの報告を行い、返信によるご意見を頂いている。	入退居状況や入居者の生活の様子や運営状況は、2ヵ月毎に書面でメンバーに報告している。報告確認の返信には報告に対する感謝や激励の他、閉じ籠りは認知症の進行を早める等の注意喚起の助言もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや生活保護課の担当に困難事例や生活の様子、現在の支援内容を伝え、意見や助言を頂いている。	研修会の案内は電話やFAXで来る。地域包括職員から運営推進会議に代わる「グループホームあかね報告書」の返信でコロナ禍の感染対策や入居者の健康維持と認知症ケアについて助言をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の委員会を通して身体拘束や虐待についての勉強会を行う。言葉遣い等の基本的なことから、何が拘束で何が虐待になるか、を理解できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止虐待防止委員会とミーティングと勉強会を定期的開催している。身体拘束による4つの弊害や様々な形態の拘束、緊急止むを得ない場合の拘束について勉強し、職員間で共用している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士、お互いに支援のあり方を話し合う機会を持ち、利用者の対応が拘束や虐待にならないよう取り組んでいる。	職員の満足度調査や職員アンケートにより、職員のストレス簡易調査を行い、メンタルケアに努めている。自覚がなく、些細なことの積み重ねが、虐待に繋がらないように職員同士で話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びの機会はまだあまり持っていない。必要性の高い利用者がいないこともあるが、知識の習得として学べるように取り組む必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的に話をして契約をするという事が無いよう、説明をして、さらに家族の意向を引き出せる様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、介護相談員の訪問はないが、包括等の繋がりを利用することで、利用者の要望や意見を通している。意見箱の設置も継続して行っている。	意見や要望をためらう家族の心情を察して設置した意見箱であったが、意見の投函はほとんど無い。地域包括職員を介しての要望や面会時に職員側から質問して要望を引き出す等の工夫をしていくとしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや個別の面談を通して、意見等を聞いている。	全体ミーティングやカンファレンス会議で意見や要望を聞いている。職員の提案でアロマの活用や足浴マッサージが好評であった。感染防止の一環として衛生面からトイレ清掃を念入りに行う等の提案があり、実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員が目標を持って仕事に取り組めるよう、個々の目標設定に取り組んだ。管理者との面談を通してより具体的に設定・実行できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため外部の研修参加は少なくなったが、初任者研修の参加ができており、1Fでは2名の職員が研修を修了することが出来た。内部研修やミーティングは定期的に行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所内での交流はあるが、法人外、外部の同業者との交流する機会はまだあまり作れていない。	1階ユニットと2階ユニットの職員の交換介護体験を行っている。職員は同じホーム内で同じ献立でも冷蔵庫内の食材の違いなどに互いに刺激を受けている。隣の歯科クリニックとは口腔ケアなどで交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活を通して、利用者の傾聴や様子観察に努めている。個々に合わせた関係作りが出来るよう、職員同士の話し合いなどを通して進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の事情や訴えをよく聞いて、その家族に合わせた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向、状態にあった支援になるよう、情報収集や傾聴に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の心身の状態を考慮しながら掃除、洗濯、食事の準備等を職員と一緒にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の様子をお便りとして伝えることで、頻回に面会が出来なくても繋がりが保てるよう努めている。また、利用者の対応が難しい時は家族に相談する等して支援の一助としている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの場所についてお話をする時は、気持ちよくお話が出来るよう、傾聴に努めています。また、お墓参りなども定期的に行えるよう取り組んでいる。	コロナ禍で馴染みの人との交流は制限されているが、車で買物や馴染みの場所を、車窓から眺められるドライブを楽しんでいる。毎年、家族の協力で自宅に帰り、墓参りをしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員でレクリエーションや行事に参加できるよう取り組んでいる。また、個別にもお話や散歩をすることで関わりが作れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所を退所して、法人内の別事業所に入所したことがあり、退所後も家族や本人との繋がりは継続し、いつでもフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に聞き取りを行うことはあるが、日常の関わりの中で把握も出来るよう努めている。さらにミーティングを通して職員同士が検討できるよう取り組んでいる。	職員と入居者が1対1で対話出来る入浴時や夜勤職員と居室での会話で本音が聞ける時がある。入居時は「自分は申し込んでいない」「入れられた」と言っていた方も「今は仲間がいて、ここが一番いい」と言っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人や家族からお話を聞くなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング等を通じ、職員同士が情報を出し、評価や共有をしながら一人ひとりをはく出来るよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や多職種の方々の意見や助言等をよく聞き、さらにミーティングを通して検討や意見交換を行っている。現状に即せるよう努めている。	家族からの要望で穏やかに生活してほしいとの要望がある。入居者の「喜怒哀楽」を大切に入居者同士の多少のトラブルには口を出さず容認している。体調の維持に午前と午後ラジオ体操を日課に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	充実した内容の個人記録にはまだ至ってなく、今後の課題である。ただ、利用者の情報の共有はミーティングを通して行っており、実践や内容の評価、検討に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の置かれた状態や状況を勘案し、買物や外出、地域サービスの参加など、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民との挨拶から、店・理髪店の利用、公園や小学校の散歩など、個人に合った方法や場所を利用し支援に繋げている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	こちらから主治医を押し付けることはなく、家族や本人の希望に沿ったかかりつけ医の受診が出来ている。また家族の状況に合わせ、かかりつけ医への送迎等が出来るようにしている。	かかりつけ医や専門医受診は家族の同行が基本であるが、ほとんどは職員が同行している。協力医の定期的な受診は車で職員が同行し、受診している。歯科医の訪問診療を受診している入居者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃から利用者の情報共有に努め、医療関係に伝えることができるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医以外の病院関係者との関係作りはまだまだこれからで、今後の課題である。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を取りながら、また、本人の状態をよく見ながら、施設として家族との話し合いや説明が出来ている。チーム支援が十分に提供できるよう普段から心がけたい。	入居時に「重度化対応に関する指針」を家族に説明して同意を得ている。段階的に家族や関係者で話し合い確認している。昨年12月に家族の要望で、初めて看取りを行った。職員と入居者は家族を看取るような気持ちで見送りが出来たと振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前に訓練は行ったが、まだまだ充分ではない。場当たりのでなく、計画・実施・評価に基づいて訓練が出来るようにしたい。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は行っていない。個別の状態や状況に即した訓練を、今後の課題として取り組んでいきたい。	毎月、夜間を想定した避難訓練を実施している。今年度の訓練では未経験の職員が無いように回数を増やして全職員が経験出来る避難訓練を目標とした。反省点として声が小さい、地域住民の参加が無い等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であってもプライドや羞恥心は残っている。また、年輩者であることも理解したうえで対応している。	名前か苗字に「さん」付けで声掛けをしている。居室への出入りはノックと声掛けで入居者の承諾を得てから行っている。居室の内鍵を掛ける習慣の入居者もいる。トイレの失敗時等は、さりげない声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を引き出せる様、傾聴に努めている。また、一方的で押しつけがましいコミュニケーションや介護にならないようにし、本人の意見を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクリエーション等、一日の流れはあるが、決して押し付けるのではなく、ペースに合わせて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ格好になることなく、本人との衣類の選択を心掛けている。また、充分とは言えない日はあるが、整容が行き届くよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、食事作りや準備に関わって頂いている。また、季節や行事による食事の提供を行い皆が楽しめるよう努めている。	職員がこれまで作った献立を基本にしている。献立は区役所の栄養士にアドバイスをもらっている。調理や食材の調達はユニット毎に職員が行っている。回転寿司やファミリーレストランで外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを作り、栄養バランスの確保に努めている。食事・水分量は毎食ごとにチェックして、全職員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのチェック表を作り、全利用者が良好な口腔状態を保てるよう支援している。また、一人ひとりの認知の状態に合わせて、声掛けやケアの環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声のかけ方やタイミングを考慮しながらトイレ誘導などを行っている。安易にリハビリパンツなどに頼ることなく、生活の様子や心身の状態を観察しながら支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して声掛けと見守りをしている。様子の変化やサインを見逃さず、トイレ誘導をし、全員がトイレで排泄をしている。夜間の声掛けは2人で、その他は自立で見守り対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を確認しながら、取り組んでいる。日々の運動や水分摂取量の確認も大切に、また主治医の指示や対応も取り入れながら行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間は特に設定していない。無理強いすることなく本人の気分やタイミングに合わせて入浴して頂いている。	入浴は週2回で、ゆったりと入浴できるバスタブと段差のない広めの洗い場で、随所に手摺が設置され安心である。気分転換に入浴剤を入れて入浴を楽しむこともある。脱衣所はエアコンで温度管理がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身の状態や気分に合わせて離床や臥床をして頂いている。職員の都合で離臥床させることが無いよう、本人の自己決定も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬剤情報提供書をファイル化して全職員が目を通せるようにしている。ただ、薬の効能や副作用の理解は職員によってムラがあり、今後も理解の徹底に取り組みたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活感を失わないよう、食事作りや掃除等に取り組める支援を行っている。コロナ禍で外出が制限される中、今までにはないレクリエーション(紙芝居や手作りの輪投げ等)を取り入れ、皆で楽しめる工夫を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の制限はあるが、出先で降車せず、町のイベント(イルミネーション等)を見ながら楽しめるようなドライブ等の外出の工夫をしている。	ホーム周辺や近所の公園の散歩に出かけている。コロナ禍の影響で小人数のドライブで陸奥国分寺薬師堂方面へ出かけることもある。例年の外出先は野草園や農業園芸センター等があった。混雑を避けて近くの三神峯公園で名残の桜を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が立替えでの購入で対応しています。特に制限はしていないので、財布や現金の所持を希望されるのであれば、預りなどで対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はせず、希望があれば電話を使って頂いてます。家族からの電話も取り次いでいます。手紙を希望する利用者にもポストの投函など可能な限り対応しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく快適に過ごせる様、絵や花、写真を飾っています。利用者同士が安心して生活できる、テーブルやソファ、食席の配置を常に心がけています。季節や時間帯で日光の入り方や強さが変わるので、食席の位置やカーテンの使用などにも気を配っています。	ホールは明るく、窓からは地域の日常生活や風景を垣間見ることが出来る。エアコンと加湿器、空気清浄機で空調管理がされている。食卓テーブルの他にソファが配置され、入居者の寛ぎの場となっている。壁には今年の干支のちぎり絵等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、気の合う者同士でお話が出来たりテレビが見れるようにしています。各々の性格や認知度も考慮し、トラブルに繋がらないような食席の順にも気を配っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別な工夫はしていませんが、それぞれの馴染みの物を飾ったり、好みのお部屋に出来るよう支援しています。	エアコンやベッド、洗面台、ナースコールボタンが備え付けとなっている。入居者の馴染みの筆筒や衣装ケース、家族の写真や人形などの置物が持ち込まれている。仏壇や位牌、遺影を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全とは何か、をもっと考え、整理整頓や利用者の自立に向けた環境整備に取り組む必要がある。		

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400426		
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	2F
所在地	宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3番15号		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 5 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あかねは、仙台駅から仙台市営バスで、八木山動物公園行バスに乗り、西ノ平一丁目下車すると、すぐ近くにあります。隣接して小学校があり、あかねは車道を挟み通学路に面しております。子供たちの通学の様子が窓越しに見えます。運動会の時期には校庭で元気に練習している様子も見え、とても穏やかな環境の中にあります。今年春から避難訓練を毎月定期的に行っています。初歩的な大声を出すことから始め、非常時の対応を職員全員が身に付くよう取り組んでいます。今後、心身に合わせた訓練に取り組みたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道286号線の西多賀二丁目交差点から三神峯公園方向に約1.5kmに位置している。周辺は小学校や郵便局、病院等が点在する住宅街である。目標達成計画に掲げた全職員の避難訓練への参加は、避難訓練の毎月開催とシフト調整により、職員が交互に参加して達成されている。理念の実践も職員アンケートの実施で、職員それぞれの考え方や取り組み姿勢などに違いがあることが分かり、ホームが目指すケアのあり方について職員同士で話し合うきっかけとなった。職員は入居者が地域の日常が感じられる家庭的な環境のなかで理念に沿った、その人らしい生活と穏やかに楽しい一日を送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね)「ユニット名 2F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆と共同で理念を制作している。申し送り、ミーティング時、困難事例の時、理念を振り返り実践に繋げている。	理念は事務所に掲示して職員間で共有している。職員アンケート結果から、「真心をこめて～」を掲げ、ホームが目指すケアのあり方について職員同士が話し合うきっかけとなった。理念を意識した行動を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。敷地内を往来する住民や児童などを眺めて親しんでいる。	コロナ禍以前は、地域の消防訓練参加や金剛沢小学生の体験学習の他、社協の紹介で傾聴ボランティアが来訪していた。近所の商店や電気店の食材や湯沸かしポット、乾電池の配達時に店主などと交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員を通し、入居者の事例や支援方法をお便りにして報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、集まる会議は控えている。代わりに書面を通じてグループホームの報告を行い、返信によるご意見を頂いている。	入退居状況や入居者の生活の様子や運営状況は、2ヵ月毎に書面でメンバーに報告している。報告確認の返信には報告に対する感謝や激励の他、閉じ籠りは認知症の進行を早める等の注意喚起の助言もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市介護相談員に、毎月一回ケアサービスの相談に乗って頂いたが現在中止状態です。	研修会の案内は電話やFAXで来る。地域包括職員から運営推進会議に代わる「グループホームあかね報告書」の返信でコロナ禍の感染対策や入居者の健康維持と認知症ケアについて助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で、拘束・虐待防止委員会を構成して、拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止虐待防止委員会とミーティングと勉強会を定期的開催している。身体拘束による4つの弊害や様々な形態の拘束、緊急止むを得ない場合の拘束について勉強し、職員間で共用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会を持つことで、少しずつ気づき学ぶことが出来ている。	職員の満足度調査や職員アンケートにより、職員のストレス簡易調査を行い、メンタルケアに努めている。自覚がなく、些細なことの積み重ねが、虐待に繋がらないように職員同士で話し合う機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解をより深めたいと思っている。今後必要性が生じたときは、関係者と共に話し合いなどや活用できるような支援をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、それぞれの不安や疑問等も尋ね、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を出して頂けるよう、意見箱を玄関に設けている。他にも、口頭や文章での要望があれば、外部相談員に伝えられるようにしている。	意見や要望をためらう家族の心情を察して設置した意見箱であったが、意見の投函はほとんど無い。地域包括職員を介しての要望や面会時に職員側から質問して要望を引き出す等の工夫をしていくとしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からアンケートをとったり、ミーティング時に意見や提案を出してもらって、話し合いを行っている。出来る事から実践している。	全体ミーティングやカンファレンス会議で意見や要望を聞いている。職員の提案でアロマの活用や足浴マッサージが好評であった。感染防止の一環として衛生面からトイレ清掃を念入りに行う等の提案があり、実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせた職場配置等で無理なく働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力やレベルに合わせて、職場内の勉強会等で職員の能力の向上を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて勉強会に参加して事業所の職員との交流や研修を通して質向上を目指したい。	1階ユニットと2階ユニットの職員の交換介護体験を行っている。職員は同じホーム内で同じ献立でも冷蔵庫内の食材の違いなどに互いに刺激を受けている。隣の歯科クリニックとは口腔ケアなどで交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような訴えにも傾聴して、挨拶も含め、安心を得ることが出来る姿勢と声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に、入居者様の生活に対する要望は聞いている。要望に対し、生活の様子を伝えるなど信頼関係を築く努力に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ベストな支援内容に至らないことはあるが、本人の意向や状態に沿った支援内容になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る役割を持っていただき、感謝する言葉をかけます。日常、掃除や洗濯、食事作り、レクリエーション等を行うことで、相互に支えあう関係作りを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、毎月のお便りで、日常の生活の様子や報告を行っている。ご家族と入居者様の手紙のやり取りもある。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時期を考え、馴染みの人との関係継続の支援に努めたい。	コロナ禍で馴染みの人との交流は制限されているが、車での買物や馴染みの場所を、車窓から眺められるドライブを楽しんでいる。毎年、家族の協力で自宅に帰り、墓参りをしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間を取ったり、食席を変えたりすることで、円滑に関わりを持てるよう努めたり、レクリエーション等の参加を促している。また、グループ行動が好きでない方も意見を尊重して自由にして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所を退居しても必要に応じてアドバイスや相談が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、ご本人とお話して、さりげなく希望や意向の思いを伺っている。すべての思いを引き出せていないが、ご本人を中心としたケアになるよう努めている。	職員と入居者が1対1で対話出来る入浴時や夜勤職員と居室での会話で本音が聞ける時がある。入居時は「自分は申し込んでいない」「入れられた」と言っていた方も「今は仲間がいて、ここが一番いい」と言っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人から、生活歴やこれまでの様子などを伺って、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や、健康管理、毎日の申し送り時の様子観察を通して、把握するよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を聞くよう努め、本人の意向や医師の指示を反映できる介護計画を目指している。入居者様の担当制でモニタリングを実施している。	家族からの要望で穏やかに生活してほしいとの要望がある。入居者の「喜怒哀楽」を大切に入居者同士の多少のトラブルには口を出さず容認している。体調の維持に午前と午後ラジオ体操を日課に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活様子は個別記録に残している。気づきなどの、申し送りはノートにより送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事に参加したり、法人内の事業所との連携を図り、柔軟な支援やサービスに取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、消防署、食料品店、協力委員との繋がりをベースに支援できるよう努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医は、ご家族による受診、往診、スタッフの送迎による各々受診を行っている。急変のある入居者様には、日常の状況報告したり、同行したり、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医や専門医受診は家族の同行が基本であるが、ほとんどは職員が同行している。協力医の定期的な受診は車で職員が同行し、受診している。歯科医の訪問診療を受診している入居者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化があれば、逐一、かかりつけ医の看護師や法人内に勤務する看護師に連絡や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、出来るだけ面会に行き、容態の把握に努めたり、現場の看護師や相談員と、退院に向けて情報のやり取りを行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、ご家族と事業所で話し合いを行い、理解をして頂いた。参加できなかったご家族にも資料を送り、説明を行った。	入居時に「重度化対応に関する指針」を家族に説明して同意を得ている。段階的に家族や関係者で話し合い確認している。昨年12月に家族の要望で、初めて看取りを行った。職員と入居者は家族を看取るような気持ちで見送りが出来たと振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なすべての職員は応急手当や初期対応の訓練を行う計画をしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の実施や研修で全職員のレベルの向上を図りたい。	毎月、夜間を想定した避難訓練を実施している。今年度の訓練では未経験の職員が無いように回数を増やして全職員が経験出来る避難訓練を目標とした。反省点として声が小さい、地域住民の参加が無い等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁等で、衣類やパッドを交換する時等、大事にせず、静かに自室やトイレに誘導して対応している。間違ったり分からなくても否定せず、共感する姿勢を大切にしている。	名前か苗字に「さん」付けで声掛けをしている。居室への出入りはノックと声掛けで入居者の承諾を得てから行っている。居室の内鍵を掛ける習慣の入居者もいる。トイレの失敗時等は、さりげない声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを否定せず、傾聴する姿勢を大切にしている。一方的に働きかけるのではなく、自己決定に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の様子や状態に合わせて、離床だけに拘らず居室やホールで無理なく過ごせるように努めている。また、本人のペースに合わせて、入浴や散歩、レクリエーションを促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で衣類の選択が出来ない入居者様にも、一方的に選ばず、いくつかの中で選択できるように支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、食器の片付けなど、個々の能力に合わせて手伝って頂いている。皆で楽しく食事が出来るように、テーブル席も入居者様同士、気持ちの合う同士を考えている。	職員がこれまで作った献立を基本にしている。献立は区役所の栄養士にアドバイスをもらっている。調理や食材の調達はユニット毎に職員が行っている。回転寿司やファミリーレストランで外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎日チェックしている。特に食事量や水分量が少ない入居者様には別で水分チェック表を作ったり、体力や状態に合わせて食事量にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日一回は声掛けやセッティングで行えている。認知症による困難な入居者には、見守りながら声をかけて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながら定時のトイレ誘導や、様子を見ながら声掛けをしている。出来ないことをお手伝いし、過度な介助にならない様、心がけている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して声掛けと見守りをしている。様子の変化やサインを見逃さず、トイレ誘導をし、全員がトイレで排泄をしている。夜間の声掛けは2人で、その他は自立で見守り対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックは行うも、なかなか出来ない入居者もいるが、バランスの取れた食事や散歩などで、運動を促すことにも取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理強いするような声掛けはせず、個人の希望を尊重して、入浴して頂くよう心掛けている。入浴拒否がある入居者様には、タイミングや声掛けのに考慮して入浴を促している。	入浴は週2回で、ゆったりと入浴できるバスタブと段差のない広めの洗い場で、随所に手摺が設置され安心である。気分転換に入浴剤を入れて入浴を楽しむこともある。脱衣所はエアコンで温度管理がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に離床や臥床をさせることなく、個々のペースや状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のチェック表を使い、誤薬や服薬忘れが無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事以外にも月に一度の外出日を作り、気分転換を図っている。皆でできるレクリエーションにも参加して頂き、個々が楽しめるよう心掛けている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に行っており、近所の公園などに行けるよう支援している。	ホーム周辺や近所の公園の散歩に出かけている。コロナ禍の影響で小人数のドライブで陸奥国分寺薬師堂方面へ出かけることもある。例年の外出先は野草園や農業園芸センター等があった。混雑を避けて近くの三神峯公園で名残の桜を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物品の購入には立替えで対応しており、現金を所持している入居者様はほとんどいません。財布やお金を所持することが必要な方には所持して頂き、訴えや希望があれば買物、外出するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には無理な時間で無いかぎり対応できるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブルの位置を変えることで、少しでも全入居者様が居心地よく過ごせるよう、努めている。また、季節に合った作品を作り、季節感が出るように心掛けている。	ホールは明るく、窓からは地域の日常生活や風景を垣間見ることが出来る。エアコンと加湿器、空気清浄機で空調管理がされている。食卓テーブルの他にソファが配置され、入居者の寛ぎの場となっている。壁には今年の干支のちぎり絵等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いに過ごせるようなテーブルの配置になっている。ソファ等も活用して頂くことで、皆から距離を置くこともできる。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が使い慣れたものを持ち込んでいる。仏壇や位牌を置いたり、花や絵を飾ったりして居心地よさを工夫している。	エアコンやベッド、洗面台、ナースコールボタンが備え付けとなっている。入居者の馴染みの筆筒や衣装ケース、家族の写真や人形などの置物が持ち込まれている。仏壇や位牌、遺影を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し、転倒事故なく自立した生活が送れるようにベッドの位置や衣装ケースの配置を工夫している。各居室に名前を入れ、迷わず分かるようにしている。		